

「未知の深海に光を当てた深海水族館プロデュースの経験から学ぶ」

伝えていくには 沼津の隠れた魅力を

日本初の深海をテーマとした水族館として誕生した沼津港深海水族館シーラカンス・ミュージアム（以下、深海水族館）は、未だ謎の多い深海生物のユニークな姿やその面白さにスポットを当てた企画や展示で話題を集め、全国から多くの人が訪れる沼津の人気スポットとして定着しました。

今回の市長新春対談は、深海ブームの火付け役である深海水族館館長の石垣幸二さんをお招きし、本市が課題とする潜在的な魅力の発信をテーマに語っていました。

深海生物との出会いと 駿河湾・深海の価値

【市長】明けましておめでとうございます。本日は、お忙しいところありがとうございます。

【石垣】いかが様です、貴重な機会をいただきましてありがとうございます。

【市長】沼津港は年間140万人もの観光客が訪れる沼津のにぎわいの拠点となっています。その沼津港に平成23年12月にオープンした深海水族館は全国から多くの観光客が訪れ、大変なにぎわいになっていますが、石垣さんと深海生物との出会いはどのようなものだったのですか。

【石垣】私はもともと水族館などに観賞用の海洋生物を供給する仕事を専門にやっていました。そんな中、平成14年頃にベルギーの博



裕栗康原

沼津市長

対談

幸石垣

沼津港深海水族館
シーラカンス・
ミュージアム館長

Koji Ishigaki

昭和42年下田市生まれ。県立下田北高等学校卒業後、日本大学国際関係学部卒業後、会社勤務を経て、平成12年に観賞用の海洋生物を供給する会社（ブルーコーナー）を設立。国内外の水族館や博物館に供給するほか、海洋生物を紹介するテレビ番組の監修やコーディネートを手掛ける。平成23年に開館した深海水族館の館長に就任し、現在に至る。

深海生物を集められる人はそうはないということです。欧米をはじめ、世界中からたくさん依頼が入るようになりました。深海生物の人気が海外を中心に広がったんですね。これが私と深海生物との出会いでした。

【市長】なるほど。深海の生物を扱い始めたから駿河湾や戸田との縁も出てきたということですね。

【石垣】はい。海外の人から、「こんなにたくさん種類の深海生物が集まる場所は世界に駿河湾しかない」とはつきり言わされたんですよ。海外の人は普通に「SURUGAWAN」や「HEIDA」と言う

【市長】私たちの身近にありますこの駿河湾は、世界から見たらとても価値あるものだったという感じました。

【石垣】はい、その通りですね。海外では大騒ぎでした。

沼津の人が自慢できる施設をつくりたい

【市長】その後、深海水族館がオープンしたことですが、どういった経緯で館長になられたですか。

【石垣】深海水族館のオーナーである佐政水産株式会社の佐藤慎一郎専務に初めてお会いした時に、沼津港にたくさんある飲食店とは別に、人が楽しめるアミューズメント施設として水族館はできないかと声をかけて頂いたんです。「地元の人が自慢できる施設をつくりて盛り上げたいんだ」と、そうおっしゃったんです。

私の仕事の4割は海外への輸出で、地元の人と関わる機会が少なくて、自分の仕事を通じて何か地元に貢献できないかと模索していたところにこの言葉を頂いたので、とても心を打たれて「よし、今だと出会って15分で快諾しました。



※底引き網漁…深海に網を沈め、タカアシガニなどの深海生物を獲る漁法で、戸田地区では古くから行われている。